

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 11月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2775003151		
法人名	有限会社さざなみ		
事業所名	グループホーム さざなみ		
所在地	〒578-0901 大阪府東大阪市加納7丁目12番23号 (電話) 072-873-9550		
評価機関名	NPO法人エイジコンサーン・ジャパン		
所在地	〒559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビル ITM棟9階		
訪問調査日	2009年 10月 21日	評価確定日	2009年 11月 18日

【情報提供票より】(平成21年9月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 5月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	10人 常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3階建ての 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有2年償却 / 無
食材料費		円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4) 利用者の概要(9月18日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0	要介護2	1		
要介護3	6	要介護4	0		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 83.8 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西村クリニック・東デンタルクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームさざなみは、JR片町線住道駅より南方面に15分程歩いた住宅街の、生活道路に面した場所に立地している。3階建て建物の2階部分をホームとしている。平成15年5月1日に共同経営「有限会社さざなみ」として設立され、その後現在の代表者が経営を引き継いでいる。その代表者の息子が所長代理として毎日の運営管理を行い、若い所長代理の下職員も協力的で明るく、ホーム全体が楽しそうに感じられる。毎日の食事は職員による手作りのもので、家庭的なあたたかい雰囲気の中での食事は入居者にとってとても楽しみな時間となっているようである。過去、2名の入居者が転倒及び病気で寝たきり状態になったが、ホームでの職員による献身的な看護により元の歩ける状態にまで回復させた実績があり、この事はホーム及び職員の大きな誇りとなっている。建物は、設立時改装してグループホームとしたもので、現在は構造・設備の面からも不備な物となっており、又賃借である為、近いうちに転居等を含め検討したいとの事である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 7.家族等への報告...会計報告書に少し手が加わり、明るい見出しとなった。家族便りは今後も一考の余地がある。26.鍵をかけないケアへの実践...ホーム入り口やエレベーターは、日常的に鍵がかかったままである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 上記の前の評価に対し、改善の努力が認められる。外部評価の意義も理解され職員にも浸透されているので、今回の評価に於いても指摘ポイントに取り組む姿勢は十分に期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月間の活動報告、入居者及び職員の近況報告・行事について の定例項目及び質疑応答に加えて、毎回それぞれの時季に合わせてのテーマを議題に挙げている。例えば、第3回(5月)新型インフルエンザ予防対策・発生時の対応について 第4回(7月)高齢者虐待防止について ・熱中症について
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見や苦情は、家族の来所時に対応したり、玄関に「意見箱」を設置しているが、申し出はない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域老人会会長の協力が非常に大きく、運営推進会議にも毎回出席下さり、大きな支えとなっている。所長代理が地域の清掃や催し物に参加し、地元との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「楽しく・自由に・ありのままに」コミュニケーションや行事を楽しみ、個人の人格を尊重し自分らしく過ごす。入居者同士や家族との暖かい触れ合いの実現を目指している。		理念は事務室の壁に貼られている。事業所独自の理念は、わかり易く簡潔に表現されていて良い。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念を唱和している。唱和の後に夜勤者からの引継ぎを行い、申し送り事項の共有を図っている。		毎朝の唱和によって、理念が職員全員に意識づけられている。今後も理念の実現に向けて取り組んでいくことを願う。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、地域の人たちと出来るだけ交流出来る様に地域の催し物には出来る範囲の参加をしている。これまで所長代理が、地域掃除や防災講習会等に参加している。又、地域の方より不要となったベッドの提供や花火への誘いなどもあった。今後は地域の人をホームにどう呼び込むかを考えている。		今後は、地域の人をホームに呼び込むような催し...例えば、警察署を交えての防犯・交通安全・詐欺・悪質商法等の講演会や小・中学生による職業体験学習の受け入れなどをし、地域との付き合いを広げていったら如何か。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価をしっかりと受け止め、改善すべきところは改善に向け努力している。		前回の指摘には改善が見られた箇所（外部評価7）もあるが、あと少しの努力を望む。外部評価に対する意義は理解されている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1度(第2又は第3月曜日)開いている。2ヶ月間の活動報告をし、地域や家族の意見を取り入れサービスの向上に活かしている。</p>		<p>会議の出席者が固定されており、今後は民生委員や今まで出席されていない家族にも参加を呼びかけ、市の職員にもホームの様子を見てもらえるよう参加を促して欲しい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは何かあれば協力してもらえる様になっている。市を通して頼めるボランティア体制を目指したいと考えている。</p>		<p>市には先ず、運営推進会議に出席してもらえよう呼びかけて欲しい。相談事項にも実直に対応してもらえよう関係を築きあげたい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当者を決め、家族への一言を行事・金銭報告等と共に手紙によって報告している。</p>		<p>前回指摘の項。金銭報告書に1ヶ所イラストが加わり明るい見出しとなったが、ホーム内での暮らし振りは伝わらない。2ヶ月に1度でも、例えば「ホーム便り」を発行し、運営推進会議の内容も伝えたい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時などに意見・要望などの収集に努めている。又、1階の下駄箱の上に意見箱を設置している。</p>		<p>下駄箱の上に意見箱はあるが、用紙と筆記用具も備えておきたい。意見箱の付近に、市町村及び公共の苦情申し立て機関の連絡先も明記されたい。苦情・意見等は、信頼関係を築くためにも、必ず運営推進会議等で公表されたい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>本人の意思を尊重しつつ、移動や離職を必要最小限に抑える工夫をしている。</p>		<p>ホーム内では、コミュニケーションがよく図られている。職場環境を整え、職員がやり甲斐を持って長く働き続けられる環境作りに期待したい。職員が一息つける落ち着いた場所も確保されたい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市町村の研修には積極的に参加の申し込みを行っている。過去に防災・ソーシャルワーカー・地域の人向け感染症対策を受講した。		職員の質を向上させる為にも、段階に応じた研修や学びの機会を与えたい。研修後は内容を報告し、職員全員が共有したい。又外部研修のみでなく、外部から講師を招いての研修等、学びの機会も作りたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域で管理者などの交流は行われているが、職員の同業者間の交流は行われていない。		現在20ヶ所弱ある東大阪市内でグループホーム同士のつながりは無い。市の担当者にネットワーク作りを呼びかけてみてはどうか。職員の交流や情報交換等により東大阪市のグループホームの質の向上が期待されると考えられる。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のペースに合わせ、ゆとりのある対応を心掛けている。		今後も本人の気持ちを受け止め、安心して入所生活が出来るよう、初期の関係作りに努められたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であることを心にとめ、共に支えあう関係を築いている。洗濯物を干す前の準備・食事作りの手伝える範囲での手伝い(大根おろし等)・食後の食器運びなど入居者にも一員として手伝ってもらっている。		毎日の生活を共に過ごす事で、入居者が安心して暮らしていける。冗談を言いあったり明るく話しかけてくれる入居者達に接して、ホームでの生活を共に楽しんでいる様子が見受けられた。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。じっくり相手をしたり話を聞く事で、表情や細かい変化に気を付けている。</p>		<p>職員は、日々の会話の中や表情などから入居者の思いや意向を読み取る事に留意し、常に「気づき」に心掛けられたい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族等、職員の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。月2回のカンファレンスと毎月の職員会議で、計画作成担当者だけでなく職員全員から意見を聞いている。</p>		<p>今後も本人の希望や家族の意見等もよく聞き、気づきや要望を反映した介護計画を作成されたい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しを行う必要が生じた時は家族と連絡を取り合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		<p>見直しの期間にとらわれず、現状に即した計画が作成出来るよう日々入居者の変化にも気を留められたい。新たな介護計画は家族の確認印をもらい、その折にはポイントの説明も忘れずに行いたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業所の多機能性を活かした支援に努めている。おむつ・パジャマ・ポータブルトイレ・備品等、入居者の負担がなるべくかからない様購入場所を探したり、又おむつなど大量購入しても個別に領収証を発行してもらえる様に折衝もした。</p>		<p>今後も、入居者や家族にとって安心した生活を送って行けるよう、多様な支援をされる事を望む。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでもどんな時でも連絡が取れる、又急変の時もすぐに来所してもらえるように連携を取っている。		看護師が2名（常勤1名、非常勤1名）いる為、日頃の健康には安心である。又、歯科医の往診も定期的（週1回）に行われ、口腔衛生にも積極的に取り組まれている。これからの高齢者の「生活の質」=QOLの向上を目指すものとしてたいせつな事である。歯ブラシの衛生にも気を配られたい。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について書面に説明し、出来るだけ早い時期に家族等と話し合いをしている。	○	重度化した場合や看取りに関しての、事業所が対応し得る支援のあり方を明文化し、重要事項説明書や契約書に記載されたい。又、本人や家族・医師・職員等での話し合いは、状態の変化に応じて確認し合い、文書化した確認書をその都度残したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーの確保に努めている。個人ファイルは机の引き出しに保管し、取り扱いに注意している。	○	トイレでの介助に関し、トイレ入り口の扉（アコーディオン・カーテン）が車椅子に遮られ、開いている状態で介助されていた。布カーテンを取り付けるなどして外部から見えないう、早急に対策を考える必要がある。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのその人らしい暮らしを出来るように支援している。		今後も入居者に合わせた支援を職員の認識の高さで、個々に添った支援を続けられたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かし、入居者と職員が一緒になって準備や片付けをしている。		食事作り（大根をおろす作業）を手伝う入居者もいた。メニュー作りは大変と思うが、手作りの食事は入居者の完食からも大変喜ばれているものと感じられる。今後も是非一緒に準備や食事、片付けを続けて行きたい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しめるように支援している。現在夏は毎日、冬は週2回の入浴。		入浴日は基本的に決まっている。入居者は自分の入浴日を把握している。一人で入浴出来る入居者もいるが、今後も見守りながらの支援を願う。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手伝い、ゲーム、レクリエーション等に役割を持って貰えるよう支援している。ゲームやレクリエーションは積極的に新しいものを取り入れ、現在2ケタ計算やぬりえに取り組んでいる。		食後の後片付け（トレーをカウンターまで運ぶ）・洗濯物をたたむ等の役割を促している。家庭的な中で役割を持つ事は生活に張りが出るので、今後も続けられたい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週3～4回は散歩の支援をしている。		散歩は、天気により職員が近くの公園と遠くの公園とを個々に合った支援で行っている。戸外に出る事は気晴らしや気分転換にもなり、又、外気に触れる事は五感の発達にも良く、近所の人とも触れ合える機会となる。今後も体調に気を配りながら、外出支援を続けられたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険な場所以外は鍵をかけないよう取り組んでいる。		非常時は開けられる鍵に取り替える予定でいる。時間帯でむずかしいが、職員で見守る方法など工夫して欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署・自治会等と話し合い、協力を得られるよう働きかけている。通報マニュアル・連絡網・避難経路・災害マニュアル等は整備されている。	○	入居者の誘導避難経路の確認は職員全体で徹底されたい。災害時に備え、飲料水・食料品・医薬品・おむつ・毛布等を確保しておきたい。又、通信網の破壊時に備えて、広域避難場所の確認をし、家族や関係各所に通知しておくとうよい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録や、排泄・水分表を通して、水分量が一日を通じて確保出来るよう一人ひとりの状態や力に応じた支援をしている。		水分の摂取量は毎日記録し、情報を共有している。毎日の食事は職員が考えており、栄養士の指導は受けていないが、専門的なアドバイスを受けたらどうだろうか。管理栄養士のチェックを受け書面に残す事で、安心出来るのではないが。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共用空間づくりに工夫している。		多くの時間、入居者はソファでテレビを見るなどして過ごしている。表情が明るくいきいきされている様子が見られた。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が心地よく過ごせるよう、本人の好みのものや使い慣れた物を置くなどして工夫している。	○	居室には多くの写真が貼ってあったり、タンスには家族から贈られた衣類があったりで、今の住まいが我が家であるという居心地の良さが感じられた。一人の入居者の部屋に於いて、テレビが不安定な台の上に乗っており、非常に危険な状態にある。早急に対処されたい。

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。